

年間第十一主日  
ルカ 7・36-50

2013.6.15 18:30 ミサ  
マルセリーノ・フォンツ  
(クラレチアン宣教会司祭)

今日の福音を考えるために、この物語に登場する人々の立場に立って、彼らと自分を結び付けてみれば良いのではないかと思いました。

まず、ファリサイ派の人のことを考えると、彼はイエス様を招待したのです。どういう気持ちで招待したかは書いてないのですけれど。しかし、その人はイエス様のことを心の中で裁いてしまったのです。言葉には出さなかったけれど、いろいろなことを「思った」と書いてあります。わたしたちは他の人を裁くときに、心の中で他の人と比較して自分のほうが正しいとか、優れているとか、そのような気持ちでその人を裁いてしまうことがよくあるのではないかと思います。でも、そのようにすると、その人の本当のことを理解することができなくなるのではないかと思います。ただ体面で裁いてしまっただけで、考えてみれば自分の経験でとかで、人々を見てしまうことになるのです。このようにすると偽善者になります。自分のこと、本当のことを認めなくなるのです。

罪深い女の人の心を深く見ることができたのは、イエス様だったのです。イエス様は決してその外面から人々を裁かないで、人々の心を深く思っていたのです。イエス様の言葉によって、みんなから冷たい目で見られていたこの女の人の心がどれほど優しい心だったかと、どれほど人を愛する心を持っていたかということがはっきり分かります。この女の人は、自分が罪人だということをはっきり認めていた。だから、認めていたからこそ赦された。赦しを願っていない人は、赦されているということをはっきり認めることができないのではないかと思います。だから、イエス様がこのようにおっしゃったのです。たくさん赦されたから、たくさん愛することができる。わたしたちにとって、どれほど愛されているかを実感できるには、どれほど赦されているかということを確認しなければならないのではないかと思います。赦されていないと思ったら、神さまの本当の愛を体験できないでしょう、ということです。

そして、イエス様の話からもう一つはっきり言えることは、わたしたちは愛するために、愛することを学ぶために、赦されるという体験を、赦されている体験をしなければならぬ。自分自身がどれほど罪人であるかと認めた上で、本当に赦されているのだという体験をしていけば、他の人に対しての見方が変

わってくるでしょう。その人との関わり方が、本当の理解のある、愛のある関わり方になって行くでしょう。わたしたちにとって、その罪深い女の人の姿はとても大事な姿ではないかと思います。わたしたちにとって大事なことを教えてくれた、その人の姿なのです。

さらに、イエス様はわたしたちにもう一つ大事なことを教えてくださっているのではないかと思います。人々を裁かない心。人々をただ体面で見めるのではなくて、人々の心を見る、愛の目で深く見るというような見方、そのような目を教えてくださっているのではないかと思います。このように人々を見ることによって、わたしたちの関わりが変わってくるのではないかと思います。この物語は、わたしたちにとって、現実の中でどのように生きれば良いか、どのように関われば良いかということを深く教えてくださっているのではないかと思います。

わたしたちはどれほど赦されているかということをお祈りしながら、神さまの前で新たに認め、それに感謝しながら、イエス様が教えてくださった「愛する心」を持つことができるように願って今日のミサを続けましょう。